栄小学校だより

令和６年２月１日（木）　No.４０

○フラワーアレンジ教室（４年）

1月30日(火)に4年生が「フラワーアレンジ教室」に参加しました。講師の先生は、本田泰親さん(花工房ボナーレ代表)です。
今回の授業では、「花屋の仕事はどんなの？」から始まり、お花の種類やお花の役割などを学習しました。
その後、実際に子どもたちひとり一人が花びんに花を活ける実習をしました。
先生の指示通りにお花を活けるとプロ顔負けの生け花が出来上がりました！
お花を飾る場所や毎日のお手入れの方法(①水を毎日替える、②「切り戻し」をして新鮮な水を吸わせる、③枯れた花や葉を取り除く)などを教えていただきました。
花が身近にある生活はとても素敵なものですね。

○授業参観への参加ありがとうございました

1月31日(水)の5限目に「3学期授業参観」を行いました。
今年度最後の授業参観でしたが、たくさんの保護者の皆様にご参加いただきました。
子どもたちも家族が見守る中、嬉しさと恥ずかしさが入り混じりながら授業に参加できていました。また、参観後の来年度 PTA 学級役員選出等も今年度役員さん中心に無事、終わることができました。たいへんありがとうございました。

☆特集　保護者に向けた　「親塾シリーズ１４」

家庭での子どもへのかかわり方　家庭生活（ほめ方）②

前号に引き続き、子どもたちをほめる時のポイントについて紹介をします。なかなか、日々の子育ては上手くいかない場合が多いとは思いますが、今回の特集を参考に少しずつでもかまいません。子どもの育ちを親が援助してあげましょう。

2. ほめ上手な大人であるために

ポイント1　日頃から子どもの良さに気づこうと意識する

どこにでもある木々や草花、鳥の鳴き声…、目や耳に入ってはいても、意識しておかないと詳しくは認識できません。目につきやすい子どもの気になるところや直したいところばかりではなく、日頃からちょっとした伸びや良さに気づこうと意識しておくと、ほめるべきところがどの子どもにもたくさんあることが見えてきます。

ポイント2　子どものちょっとした伸びや良さを捉えてほめる

子どもの日々の成長を意識的に捉え、些細なことでも、大人の感覚で当たり前のことと捉えず、積極的にほめましょう。例えば、大きな声で返事ができた、言われなくてもテレビを切って宿題を始めた、先生の話を聞く時の姿勢が良くなった等、日常生活の中にはたくさんあります。

ポイント3　ほめる時は、どんなところが良かったのか具体的にほめる

例えば、運動会での子どもの様子を見て、「よくがんばったね！」とほめる方法もありますが、親はほめたつもりでも、子どもの側からすると漠然としていて、何が、どう良かったのかよくわからず、ほめられたと思わないケースにもなるようです。ほめる時には、「ダンスの時の表情がとても素敵だったよ！」のように具体的にほめたほうが子どもの心に響きます。

ポイント4　タイミングを逃さずにほめる

子どもの言動をほめる時は、できるだけその場でほめることが大切です。これは、叱る時と同様で、タイミングを逃すことで効果が大きく違ってきます。タイミング良くほめることが重要です。

ポイント5　他の子どもと比較してほめることはできるだけ控える

「～さんより上手にできたね！」のように競争心を刺激したほめ方をすると、子どもは喜び頑張ります。しかし、他の子どもとの比較を過度にやると順位にこだわった頑張りになり、必ずしも自尊感情や意欲そのものの向上にはつながらないことになります。当然ながら、「～さんよりだめだったね」などというのは好ましくありません。

ポイント6　「結果」だけでなく、「過程」も大切にする

例えば、テストや試合結果だけを見て子どもを評価する。場合によっては必要なことでしょうが、一生懸命に頑張ってもうまくいかないこともあります。それを結果だけでほめたり、叱ったりしたのでは、自分は受け入れられていないと子どもは感じ、意欲も減退します。一生懸命に頑張った過程をほめ、次への意欲付けや目標設定に生かしてください。

ポイント7　ほめ方の工夫をする（感謝を添える、第三者の言葉を使って、…）

ほめるといっても、大げさに言う必要は何もありません。質問した子に「今の質問はとても良かったよ！」や、お手伝いしてくれた子どもに「ありがとう。助かったよ！」と、感謝の言葉を言ったり、落ちているごみを黙って拾い、ごみ箱に捨てている子どもを見て笑顔でうなずいたりする。そんな工夫をするのも効果的です。さらには、「近所の〇〇さんがほめてたよ」「□□先生がすごい！って言っていたよ」など、第三者の言葉を使うとかなり効果的です。